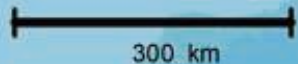




九州・沖縄を守るために

西部方面隊



文書管理者：西部方面総監部総務課長
保存期間：1年（10. 3. 31まで保存）

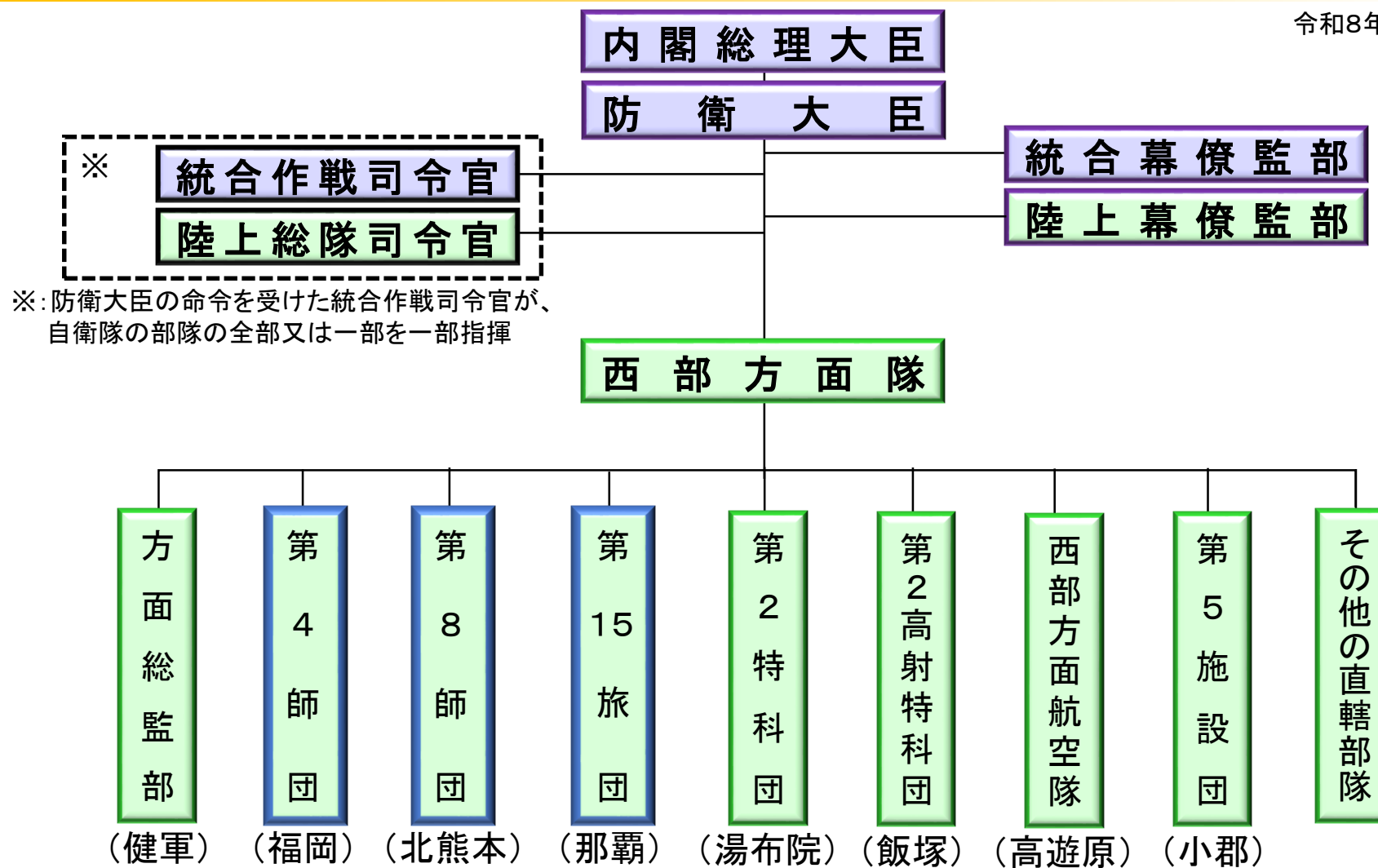
説 明 項 目

- 1 西部方面隊の概要
- 2 健軍駐屯地の概要

説 明 項 目

- 1 西部方面隊の概要
- 2 健軍駐屯地の概要

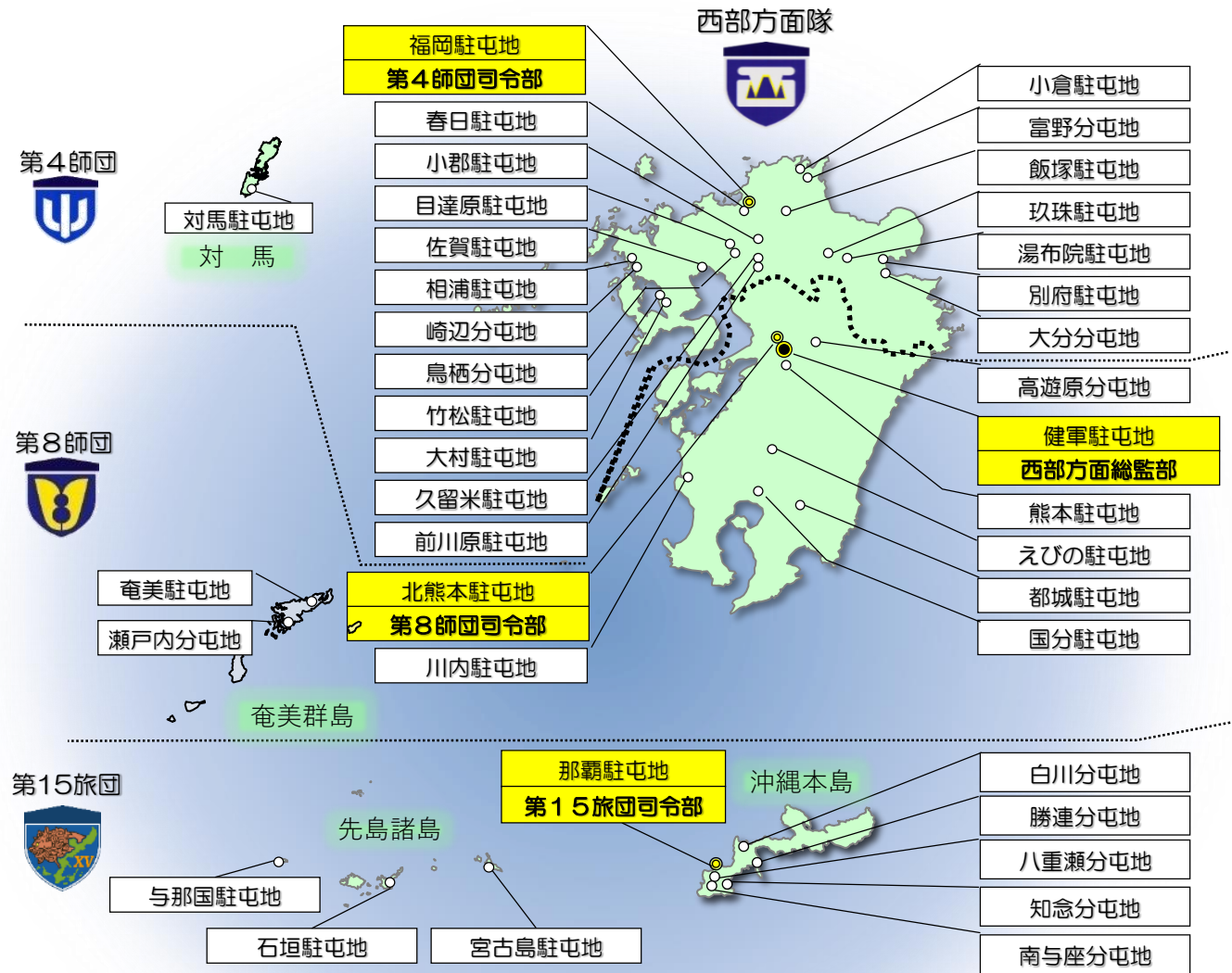
令和8年4月1日現在





西部方面隊の各所在地

凡例 ◎：方面總監部所在地 ◎：師団・旅団司令部所在地 ○：各部隊所在地





九州における自然災害

R8.9.14現在

Western Army

地震: ✕

- 熊本県震度 7 (H28. 4. 14・16)
- 大分県豊後水道震度 5 強 (H29. 6. 20)
- 鹿児島湾震度 5 強 (H29. 7. 11)
- トカラ列島近海震度 5 強 (R3. 12. 9)
- 宮崎県日向灘震度 5 強 (R4. 1. 22)
- 大分県豊後水道震度 6 弱 (R6. 4. 17)
- 宮崎県日向灘震度 6 弱 (R6. 8. 8)
- トカラ列島近海地震震度 6 弱 (R7. 7. 3)
- 熊本県阿蘇地方震度 5 強 (R7. 11. 25)
- 沖縄本島近海震度 5 強 (R8. 5. 20)
- 熊本県熊本地方震度 7 (R8. 7. 28)

林野火災: ●

- 熊本県阿蘇郡における林野火災 (R4.2.27~28)
- 大分県竹田市における林野火災 (R4.3.16~18)
- 宮崎県綾町における林野火災 (R4.4.10~11)
- 宮崎県日向市における林野火災 (R5.3.14~16)
- 鹿児島県三島村における林野火災 (R7.1.19~21)
- 宮崎県宮崎市における林野火災 (R7.3.25~26)
- 長崎県五島市における林野火災 (R7.4.7~8)
- 大分県佐賀関における林野火災 (R7.11.19~26)
- 宮崎県小林市における林野火災 (R8.1.30)
- 霧島演習場における火災 (R8.2.20~21)
- 福岡県久留米市における林野火災 (R8.5.19~20)
- 熊本県宇城市における林野火災 (R8.8.6~7)

大雨: ●

- 令和2年7月豪雨 (R2.7.3~8)
- 九州南部における大雨 (R3.7.10~11)
- 九州北部における大雨 (R3.8.11~19)
- 令和5年7月九州北部における大雨 (R5.7.10)
- 令和7年8月の前線による大雨 (R7.8.6~12)

台風

- 令和4年台風14号 (R4.9.17~20)
- 令和5年台風6号 (R5.8.7)

土砂崩れ: ▼

- 福岡県北九州市の土砂災害 (H30.7.6)
- 宮崎県えびの市の土砂災害 (R4.9.19)

火山: △

- 口永良部島火山噴火警報 (R3.2.28、R5.6.27、R6.4.13)
- 阿蘇山火山噴火警報 (R4.2.24)
- 諏訪之瀬島火山噴火警報 (R5.3.5、R6.1.14)
- 桜島噴火 (R4.7.24)
- 霧島山(新燃岳)噴火警報 (R7.3.30)

寒波: ◀

- 平成28年1月の大雪 (H28.1.23~25)

口永良部島
諏訪之瀬島

✕ トカラ列島

青字: 令和7、8年度発生の事象

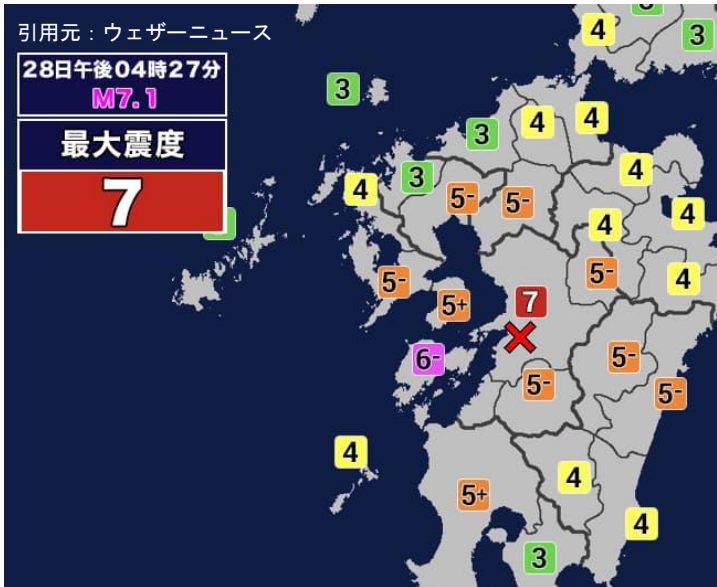
西部方面区は多種多様な災害が頻繁に発生している地域であり、即応態勢を維持



令和 8 年熊本地震の概要

【令和 8 年 9 月 1 4 日（火） 0 5 0 0 現在】

Western Army



↑ 令和 8 年 7 月 2 8 日 1 6 : 2 7 発災時の震度分布

「平成 2 8 年熊本地震」

- 4 月 1 4 日の前震（震度 7 / M 6 . 5 ）
4 月 1 6 日の本震（震度 7 / M 7 . 3 ）
極めて稀な連続した巨大地震
- 震源：熊本県熊本地方
- 被害の中心：熊本市、益城町、阿蘇地域
- 被害の概要
 - ・ 死者：2 7 3 名
 - ・ 建物被害 全 壊 8 , 6 8 2 棟
半 壊 3 3 , 6 0 0 棟
一部損壊 1 5 2 , 7 4 9 棟
 - ・ 土砂災害 1 9 0 件
- 特 徴
 - ・ 避難生活の長期化に伴う「災害関連死」が大きな社会問題化
 - ・ 国として初の「プッシュ型支援」が導入されるなど、大規模災害対処における、多くの教訓を残した災害

発生日時	令和 8 年 7 月 2 8 日（火） 1 6 2 7 頃
震源（深さ）	熊本県熊本市（1 6 Km）
地震の規模	M 7 . 1
地震の形態	日奈久断層帯 横ずれ型地震
最大震度	震度 7 : 宇城市, 氷川町 震度 6 強：熊本市南区, 八代市, 宇土市, 美里町, 益城町
被害の中心	八代市・宇城市・氷川町などの県の南西側
被害の主軸	酷暑期における断水の長期化
人的被害	死者 3 8 名 (県庁) (宇城市 3 名、嘉島町 7 名、甲佐町 1 名、八代市 2 0 名、氷川町 5 名、関連死 2 名) 負傷者 3 6 6 名 (県庁)
建物被害	全 壊：2 , 2 8 5 棟 半 壊：6 , 0 7 5 棟 一部損壊：4 0 , 7 1 4 棟 (県庁)
特 徴	○ 酷暑下における災害対応 ・ 夏季の酷暑期に発災した地震災害であり、最高気温 3 5 ℃以上の猛暑日が続き、最高 4 0 . 3 ℃の猛暑を記録 ・ 停電や断水が続く中での避難生活のため被災者の熱中症対策等が課題 ・ 派遣活動に従事する隊員の酷暑対策が必須 ○ 地震災害対応中の複合事態対応 ・ 台風 1 3 号対応 2 次災害対応としてブルーシート展開における地上での補助支援を実施 ・ 宇城市林野火災対応 ヘリコプターによる空中消火活動を実施 ○ 平成 2 8 年熊本地震の教訓を活用 ・ 1 0 年前の熊本地震の教訓を活かし、関係機関等が緊密に連携し、迅速かつ適切に対応

令和8年熊本地震に係る災害派遣（1／2）

- 八代市、宇城市、宇土市、氷川町を中心として、多くの家屋の倒壊、**長期の断水**等、甚大な被害とこれまで**経験のない酷暑下**での避難生活
- 大型の**台風の接近**、断水環境下での**林野火災**の発生に伴う**2次災害防止**に係る緊急的な活動の実施
- 10年前の**熊本震災の教訓**を活かした自治体等との緊密な連携、地域における統合運用により、時間の経過とともに**変化する被災地のニーズ**に対し**スピーディーに対応**

発災

人命救助を最優先とした活動

災害関連死を防止する活動

2次災害を防止する緊急的な活動

自治体、関係機関との連携

被害情報収集



県庁における調整



ヘリ映伝発進



ファストフォース出動

人命救助



イオンモール



日本製紙八代工場

被災者に対する緊急支援



給水支援



物資輸送



入浴支援

令和 8 年熊本地震に係る災害派遣（2 / 2）

- 八代市、宇城市、宇土市、氷川町を中心として、多くの家屋の倒壊、**長期の断水等**、甚大な被害とこれまで**経験のない酷暑下**での避難生活
- 大型の**台風の接近**、断水環境下での**林野火災**の発生に伴う**2次災害防止**に係る緊急的な活動の実施
- 10年前の**熊本震災の教訓**を活かした自治体等との緊密な連携、地域における統合運用により、時間の経過とともに**変化する被災地のニーズ**に対し**スピーディーに対応**

2次災害を防止する緊急的な活動

長期化する避難生活への対応

自治体、関係機関及び米軍との連携

台風 13 号の接近
に伴う緊急支援



ブルーシート展張における
地上での支援

林野火災に伴う
空中消火



CH-47JAからの空中消火

米軍からの
物資支援



米軍からの救援物資を輸送

長期化する
避難生活への対応



被災者に寄り添った支援を継続

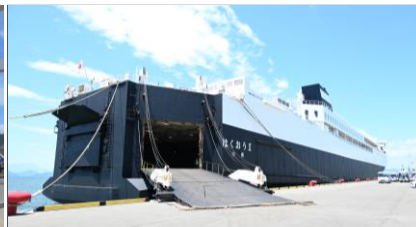
被災地のニーズに応じた関係機関と連携した最適な支援体制



空自と連携した物資輸送



海自と連携した給水支援



防衛省が借上げている借用民間船舶（はくおう）による
入浴・宿泊支援



災害派遣即応態勢

国内での災害発生に備え、陸海空自衛隊の各部隊等は、初動対応部隊「**FAST-Force**」が即応待機

FAST-Force

First Action Support-Force



先駆ける 早駆ける

説 明 項 目

1 西部方面隊の概要

2 健軍駐屯地の概要

健軍駐屯地の編成

令和8年4月現在

高遊原分屯地

健	軍	駐	屯	地
西部方面総監部	西部方面システム通信群	西部方面会計隊	西部方面衛生隊	西部方面指揮所訓練支援隊
西部方面情報隊	西部方面総監部付隊	西部方面音楽隊	健軍駐屯地業務隊	西部方面警務隊
西部情報保全隊	第五地对艦ミサイル連隊	西部方面輸送隊	九州補給処健軍支処	第三〇一システム防護隊
諸隊派遣隊				

西部方面航空隊	第八飛行隊	第一〇九飛行隊	諸隊派遣隊
---------	-------	---------	-------



- 健軍駐屯地には、総監部をはじめ各種機能を保持する部隊が所在し、**災害対応**をはじめ、**各種任務に対し速やかに対応**できる態勢を保持
- 本年3月末、当駐屯地所在の第5地对艦ミサイル連隊に**25式地对艦誘導弾**が配備



西の守りは日本の守り

～地域とともに 未来をひらく 我ら防人～

九州・沖縄

戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面しているという基本認識のもと、西部方面隊は各種災害対応をはじめ、日米共同訓練を含む練成訓練、体制移行、基盤強化等により各種能力の強化に邁進する所存